

レソト王国 恐龍の足跡切手

P. Q.

レソト王国は 周囲全部が南アフリカ共和国によって囲まれている黒人国である。ほとんどバスト族からなり バストランドと記されることもある。19世紀半ばにズール族と交争し ボーア人の圧迫を受けなどして1868年に英国の保護領となったが 1966年11月4日に独立した。面積約3万km² (中国5県にほぼ相当) 人口約100万人で そのうち白人は約3,000人いるが 公務員や宗教関係が大部分で定住しない。国土は南アフリカ最大の オレンジ川とツゲラ川の源流にあたり 海拔3,000m前後の高原からなる。そのため四季がはっきりし 冬にもなると雪が降る。 牧畜と農業が基幹産業であり 北部のダイヤモンドが唯一の鉱産物で 輸出のほゞ25%を占める。

南アフリカの地質は大きな楕円形の盆地構造をなし 盆地の中央には 三疊紀のカルー層群が同心円状の地層配列をなして その中心に三疊紀後期のストームバーク層があって その分布がほゞレソト王国と一致し これから恐龍の化石が発見されている。 南アフリカからの恐龍化石の重要性は これらが最初の恐龍の仲間だということである。

この地域からの恐龍の記載は1854年にロバート・オーウェンが *Massopondylus* (25c) を記載したことに始まる。

当時は世界のあらゆる所にイギリス人がいて 彼等の目は常に本国に向いていた。 珍らしい動植物その他何でも本国に送って鑑定を仰いでいた。 その後1866年と67年には 他の2頭の恐龍がハックスレイによって記載されている。 これらは世界の恐龍記載のうちでは初期のものであった。 しかしその後は約40年にわたって南アフリカからの恐龍の話は途絶え 研究が復活したのは20世紀になってスコットランド出身で医者だったロバート・ブルームがやって来てからである。 彼は1934年には医者を廃業して トランスバール博物館の科学職員になったが 生涯に発表した論文は約500に達する。

その後ストームバーク層から産する恐龍について研究を続けたのは シドニー・ホートン ファン・ヘーペン A. W. クロンプトン アラン・チャリグなどの人達である。 この地域の恐龍の研究は 南ドイツと共に恐龍の進化についての第1章 最古の恐龍がどんなものかを解明する上で大きな貢献をしている。

切手は1970年1月5日に発行された。 3c: モエニ (Moyeni) 付近で発見された各種恐龍の足跡と尾の跡。 5c: *Gryponyx*. 10c: *Plateosauravus* 南ドイツのトロシゲンでフォン・ヒューネが初期の草食恐龍 *plateosaurs* について詳細な研究を行った。 1930年代後期に中国雲

南省でもこの化石が発見され 分布の広さに驚ろかされたが 南アフリカからも発見された。 これらのうち *Platessauro* に近い関連のある属についてフォン・ヒューネは *Platessauravus* と命名した。

15c: *Tritylodon* 哺乳類様爬虫類 (テリオドンタ目) の1種。 哺乳類様爬虫類は二疊紀から -ジュラ紀まで続き 哺乳類の先祖となった。 *Tritylodon* は当時の恐龍と共存していた チン位の大きさで 温血だっかも知れないと云われている。 25c: *Massopondylus* 前出。

